

飯山市教育懇談会（泉台小学校区）発言要旨

平成25年9月3日（火）泉台小学校

- ・今は先生方が槍玉にあげられ大変な時代。一般的には授業中子どもが静かにしなくても厳しく出来ず、先生方は悩んでいると思う。厳しい時代だと感じているが、先生方には自信を持ってやっていただきたい。
- ・今は保護者によって考え方が様々。先生方には常識を持った対応をしていただき、できるだけ心をこめて指導をしていただきたい。
- ・泉台小学校の取組みの「ほめほめ週間」や「ニコニコ」等の取り組みは素晴らしい。飯山らしい教育、ふるさと学習が大切。子ども達にふるさとの良さを伝え、将来市外に出ても、飯山の良さを語れるようになってほしい。地区内にはふるさと学習に適した題材がいっぱいある。
- ・公民館授業としてふるさとの学習会を進めているが、今の子供達は課外スポーツ等で忙しいためか、公民館事業の参加者が少ないと感じる。
- ・身近に不登校生徒がいる。中学校卒業後はどのような支援があるのか。

教育委員会

不登校は中学校で多いのが課題です。不登校になる理由は様々で、解決の決め手がありません。子どもが学校に行きたい気持ちを育てるよう取り組んでいます。また、不登校生の中学卒業後の対策は福祉の対応になります。小中学校では自分で進路選択をし、自分で生きていけるように筋道をつけていきたいと考えています。

ふるさと教育はカリキュラムを作成し、学校で積極的にふるさと教育に取り組んでいます。他市から来た先生に対しては各種勉強会等を行い、ふるさと教育への理解を深めています。

- ・中学校の生徒数が減少し、また送迎する保護者もいて、実際に徒歩で通学する生徒は少ない。不審者、降雪等親として心配なので、スクールバスで安全に通学できるよう考えて欲しい。
- ・小学校低学年も少人数で田んぼ中の道路を通る。防犯ベルを持っても保護者として不安が大きい。スクールバスでの通学を検討してほしい。

- ・城北中スクールバスを使い小学生を載せても良いのでは、うまく車を使い児童を安全に運べたらいいと思う。
- ・コミュニティースクールでは地域と学校、教師と子どもが連携を取り、子ども達の教育に役立てたい。子ども達は忙しく、地域の行事への参加者が少ない。最低月に1回は地域の行事に参加できるよう配慮をしていただきたい。
- ・登下校に不安があるというお話があったが、各地区の皆さんにボランティア隊にできるだけ参加していただき、不審者の抑止力になればと思う。
- ・親より子どもの方がパソコン等の知識が豊富。親が知識についていけない。最後は親の責任だが、学校での取り組みを教えて欲しい。
- ・I ポットタッチの利用者が中学校ではとても多く、利用次第で傷つく子どもが多い。親も買い与えた以上責任が大きい。
- ・友達に助けられることは大きい。地域の人達に怒られることは良いこと。その場で叱ってその場で褒め、子ども達を皆で育てていただきたい。
- ・青少年健全育成会議でも携帯問題が出ている。市民会議として、中学生の携帯使用は必要ないという事を親御さんたちに届くようにしたい。

教育委員会：

以前私がいた高校でも携帯電話の指導は苦慮しました。携帯を持たせるなら親の責任で、子どもに被害が及ばないようにしっかりしつけをして欲しいと考えます。学校では生徒指導を行い、携帯の弊害を教え、正しい使い方が出来るようにするしかありません。飯山市青少年健全育成会議では中学生までの携帯を使用禁止にすべきという意見もあります。

全国学力テストの調査項目でスマホ等の使い方について、「親と約束事をしているか」との質問がありますが、当市は約束事をしていない割合が高い結果です。保護者にも危機感をもっていただき、学校でも保護者に働きかけていきたいと思います。

泉台小学校で力を入れている「自己肯定感を高める」ことは非常に素晴らしいことです。家庭や地域でも自己肯定感を高めるため、子どもを褒めて評価して下さい。

学力を高めると子ども達がふるさとを離れてしまうのではないかという意見があります。大事なことは学力と同時に、ふるさとへの愛着を育て、飯山を離れても、ふるさとへの思いを持てるよう取り組みたいと思います。